

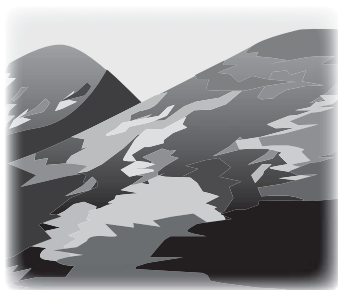


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第九六号）

大雪

十二月七日



貝吹山

伊勢市楠部町にある貝吹山。伊勢自動車道の伊勢ICの北側に見える高い山です。標高九〇・八メートル。貝を吹くとは珍しい名前ですが、室町時代の十五世紀中ごろにあった、内宮前の宇治と外宮前の山田の戦い、宇治山田合戦の時、この山でほら貝を吹いたことに由来するといわれています。ただし、その理由は兵を集めるためとか、勝どきを上げたとか、諸説あります。

名前は文献などで耳にしていたものの、なかなか登る機会がなかったのですが、地元の森田さんご夫婦に案内してもらいました。伊勢病院前の緑ヶ丘団地の奥に登山口があります。クリのイガやウルシの木に気をつけながら、登り始めると、ツタ類が多く茂っています。この山にはサルやイノシシはいないようですが、タヌキは見たことがあるとか。団地のこんなそばにも野生の動物は生きているのです。途中で直径一メートルほど、深さ一メートル半くらいの深い穴を見つけました。なんでも太平洋戦争の時に、神宮を守るための兵隊が掘った蛸壺と呼ばれるもので、身を隠すための穴だと森田さんは教えてくれました。宇治の鼓ヶ岳の五本松神社の裏手にもこうした穴があるそうです。今も戦争の跡がしっかりと残っていました。頂上近くは急坂のため、木につかまりながら登ります。

頂上へは約十五分ほど。目の前に鼓ヶ岳、眼下には伊勢自動車道がうねっています。視線を西へ外宮の方へ向くと、古市あたりの家並みが見え、さらに振り向くと五十鈴川と勢田川の河口が広がっていました。眺望のきく所であることを実感します。近世には貝を吹いて時を知らせたとも伝わる貝吹山。今はあまり知られていませんが、時を刻む里山でありました。

文 千種清美

